

# 適期田植えの育苗管理

■ 温度管理やかん水に注意し、軟弱徒長苗を防ぎましょう ■

## 1. 緑化期の管理(ヤケ苗防止対策)

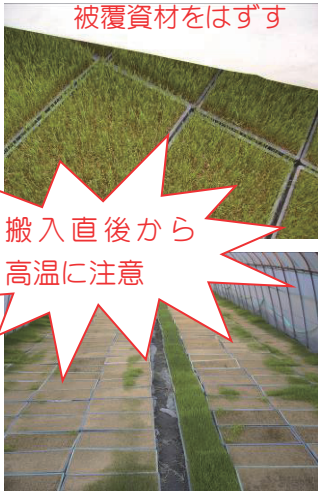
- 出芽揃い(1cm程度)を確認してからハウスへ搬入する。
- 搬入時に覆土を落ち着かせる程度に必ずかん水する。
- 搬入後は温度の上がない太陽シートなどで遮光する。

【保温の必要はほとんどない】



緑化していれば、

被覆資材をはずす



搬入直後から  
高温に注意

- ヤケ苗のほとんどは、緑化期に発生します。ハウス内が30℃以上になる場合は、被覆資材が掛けてある緑化中であっても換気(太陽の反対側のビニールを開放)しましょう。
- 又、ハウス内が高温になると病気の発生が懸念され、軟弱徒長苗になります。逆に外気温が5℃以下の低温が予想される場合は保温に努めましょう。
- 緑化完了後は、すみやかに被覆資材を取り除き徒長しないようにしましょう。
- 昼間のハウス内温度は20℃~25℃、夜間は10℃~15℃を目安にしましょう。

## 2. 硬化期の管理(草丈よりも根張り かん水はひかえめ 換気は多めに！)

コシヒカリの育苗は苗丈の伸びが早く育苗日数が短くなるため、根量が少なくマット強度が極端に弱くなる傾向があります。苗丈の伸びをなるべく抑え根量を増やすため、かん水を控えめにし、根の張りを促進しましょう。

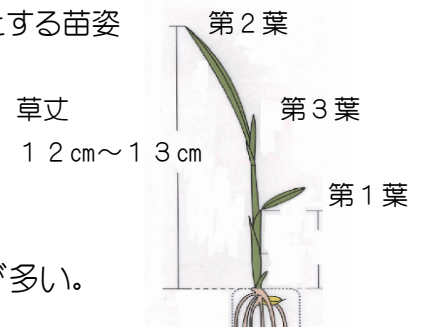
かん水は、原則として朝 1 回であるが、床土が乾燥して苗が萎れるようなら、午後 1 回軽くかん水するようにし、適度な湿り気を保つようにしてください。但し、夕方はやらずに翌朝まで待つようにしましょう。



## 3. 植付時の稚苗の目安(葉齢2.0~2.5)

- ① 第3葉が2~2.5cmくらい出ている状態。
- ② 第1葉までが3.5~4cmを超えていない。
- ③ 腰(莖)が太くて幅広く(2mm以上あって)、丸みがあり、がっちりしている。
- ④ 種子根1本と周りの根がよく伸び、根は白くて太いものが多い。

目標とする苗姿



ハウスの役割は  
雨風をしのぐだけ

- 硬化期の日中のハウス内温度は、閉めきっておくと10時頃には40℃~50℃まで上がることが多く、軟弱徒長苗を作らないためには、換気により温度を適正に保つことが要件となります。
- 一旦、上がったハウス内の温度は下がりにくくなります。遅くとも、朝8時頃までにはハウスを開けましょう。
- 硬化期になれば、保温をする必要はほとんどありません。ハウスを全開にするなど、温度を下げることを徹底してください。

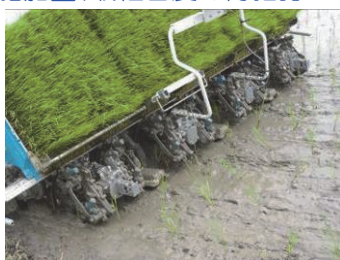
# 疎植 細植えによる過剰生育抑制

□ 植え付け本数は3~4本/株を目安に □

## 基肥量の適正化

基肥の量が過剰になるとイモチ病など病害虫の発生や、倒伏の危険性が増し、日本晴は過剰分けつとなり幼穂形成期以降肥料切れを起こすなどの影響があります。また、基肥量が少ないと葉色が淡く、株出来が悪くなり減収します。近年、側条施肥一発肥料をほとんどの生産者が使用しており、田植え時の施肥量が稲の生育期間中影響してまいります。本年より、ハナエチゼン、日本晴等についてはエコファーマー肥料からオール化成肥料に代わり、それぞれ比重も若干異なりますので、施肥開度表を今一度ご確認の上、作業を開始してください。(田植機開度調整表かがやき3月号掲載)

## 施肥量、栽植密度の再確認



□ 適期田植えの稲は、初期生育期が高温になり、地力窒素を吸収利用する割合が高まります。

□ 基肥を適正量施用することにより、適切な莖数を保ち、耐倒伏性も高まります。 莖数の適正な稲は過剰分けつの稲よりも穂肥の効果が高くなるため、登熟も向上して秋まさりの稲になります。

## 5月中下旬田植えの標準基肥量

エコファーマーコシヒカリ		慣行日本晴	
基肥一発タイプ	分施タイプ	基肥一発タイプ	分施タイプ
エココシヒカリ 886	こだわり元肥 201	日本晴 588	こだわり元肥 201
			
35~40 kg/10a	20~25 kg/10a	35~40 kg/10a	35~40 kg/10a

※ 基肥を一発肥料で基準より少ない施用量に設定した場合、穂肥量も減少することとなるので注意しましょう。分施タイプは穂肥が必要です。

3~4本植えでも

欠株率は2%程度

## 疎植・細植え

細植えにする理由は、太いしっかりとした茎をつくるためです。太いしっかりとした茎ができると、穂も大きくなり(大粒化)、倒伏にも強くなります。

植え付け本数の多い稲は、分けつが多くなり株がりっぱに見えますが、一本一本の茎が細く、穂は大きくなりにくくなります。また、目に見えて倒伏には弱くなります。とくに、平坦地では栽植密度を50株/坪以下(株間20cm)にし、1株当たりの有効莖歩合を高めましょう。



携帯電話用メールサービス「あなたの携帯電話に営農情報をお届けします！」  
稲作技術情報をよりタイムリーにお届けできるようメールサービス配信中です。  
アクセスは左のQRコードをお手持ちの携帯電話バーコードリーダーで読みとるか、  
[232g3r@a01.hm-f.jp](mailto:232g3r@a01.hm-f.jp) へ空メールを送信して登録ください。登録は無料